

令和2年度 森づくりに関する施策の実施状況 (ふくいの森林・林業基本計画)



「育てる林業から、儲ける林業・稼げる林業に」

福 井 県

目次

	ページ
1. ふくいの森林・林業基本計画の全体像	1
2. 各プロジェクトの概要	2
3. 計画期間および数値目標と実績	5
4. 令和2年度の取り組み	
① 森を活かすプロジェクト	6
② 木を活かすプロジェクト	7
③ 森に親しみ、森を守るプロジェクト	8

1 ふくいの森林・林業基本計画の全体像

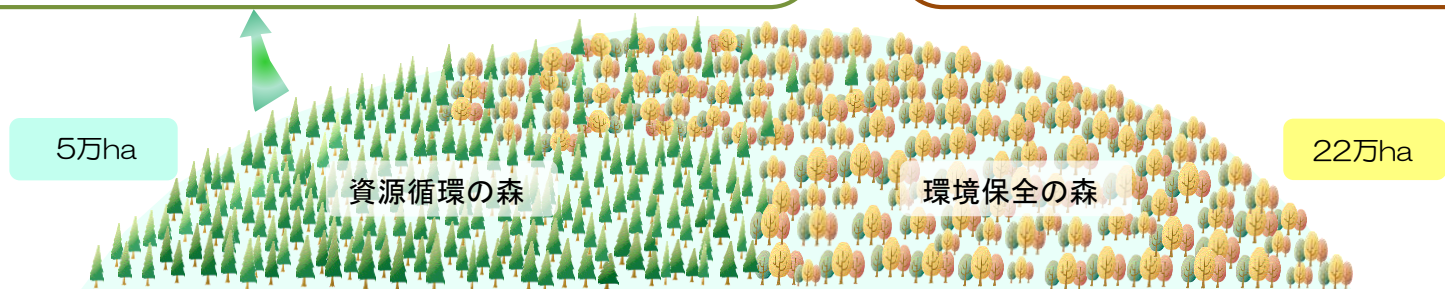
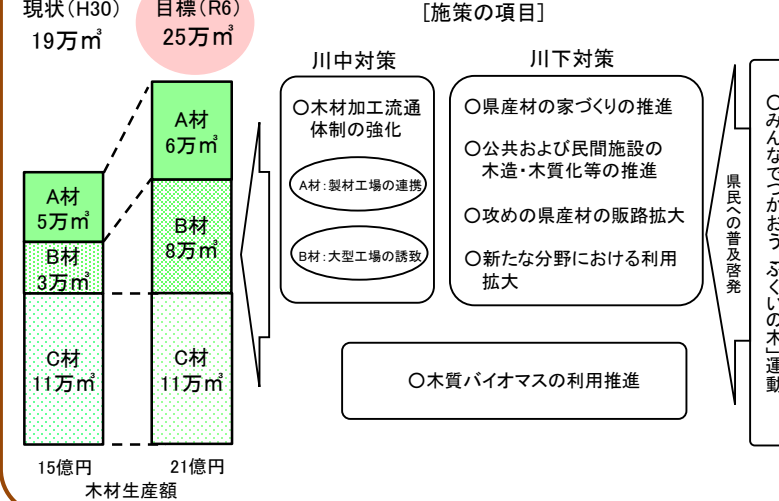
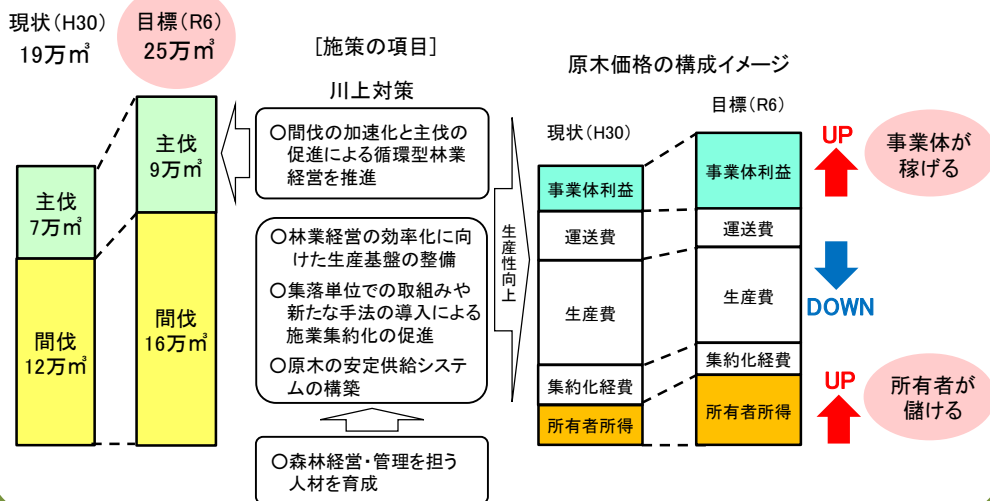
<儲ける林業・稼げる林業に向けて>

森を活かすプロジェクト

木を活かすプロジェクト

- 量** 県産材生産量を1.3倍に増やします。
- 質** 所有者の所得と事業体の利益を増やし、「儲ける林業・稼げる林業」を目指します。

- 価値** 原木の価値に応じた需要を創出または拡大します。



森に親しみ、森を守るプロジェクト

- 恵** 森林の多様な活用を通じて山村地域の活性化を図ります。
 - 森林の多様な活用による山村の活性化
 - 地域資源である特用林産物のブランド力強化
- 運動** 全国植樹祭を契機に展開している緑と花の県民運動を推進します。
 - 緑と花の県民運動を永続的に展開
 - 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光地周辺等の花いっぱい運動の推進
- 守** 事前防災・減災対策を進めるとともに、獣害・病虫害等に強い森づくりを推進します。
 - 災害等から暮らしを守る森づくりの推進

〔施策の項目〕

山村の活性化

県民運動

防災・減災

2 各プロジェクトの概要

1 森を活かすプロジェクト

～充実しつつある森林資源の積極的な利用～

◎利用期を迎えた森林資源を有効に活用するため、施業集約化の促進、生産基盤の整備等により間伐を加速化するとともに主伐・再造林による森林資源の循環利用を推進し、木材供給を拡大します。

<プロジェクト目標>

	(H30)		(R6)
間伐材積	12万 ³ m	→	16万 ³ m
主伐材積	7万 ³ m	→	9万 ³ m

- ① 間伐の加速化と主伐の促進による循環型林業経営を推進
- ② 集落単位での取組みや新たな手法の導入による施業集約化の促進
- ③ 林業経営の効率化に向けた生産基盤の整備
- ④ 原木の安定供給システムの構築
- ⑤ 森林経営・管理を担う人材を育成



苗木供給体制の整備
(コンテナ苗)

2 木を活かすプロジェクト

～原木の価値に応じた木材需要の創出・拡大～

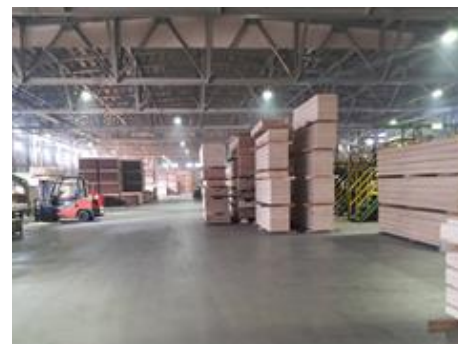
◎木材加工流通体制の整備や福井の技術を活かした商品づくりなどにより、県産材の価値を高め、国内外での新たな販路を開拓し、需要を拡大します。

<プロジェクト目標>

(H30) (R6)

県産材需要量 A材：5万 → 6万^m B材：3万 → 8万^m C材：11万 → 11万^m

- ① 木材加工流通体制の強化による県産材の利用拡大
- ② 県産材の家づくりの推進
- ③ 公共および民間施設の木造・木質化の推進
- ④ 攻めの県産材の販路拡大
- ⑤ 新たな分野における利用拡大
- ⑥ 木質バイオマスの利用推進
- ⑦ みんなでつかおう「ふくいの木」運動



大規模加工工場の誘致

3 森に親しみ、森を守るプロジェクト

～森林の多様な活用と森林保全の推進～

◎森林の多様な活用を通じて山村地域の活性化を図るとともに、災害等から暮らしを守る森づくりを推進します。

<プロジェクト目標>

新たな森林活用に取り組む団体 17団体

- ① 森林の多様な活用による山村の活性化
- ② 地域資源である特産林産物のブランド力強化
- ③ 災害等から暮らしを守る森づくりの推進
- ④ 緑と花の県民運動を永続的に展開
- ⑤ 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光地周辺等の花いっぱい運動の推進



Satoyamaトレイル

3 計画期間および数値目標と実績

【計画期間】 令和2年度～令和6年度（5年間）

【数値目標と実績】

	項目	R2年度実績	R6年度目標
数値目標	県産材生産量	22.5万 m ³	25万 m ³
	林業生産額	25億円	30億円
プロジェクト外目標	間伐材積	13.8万m ³	16万m ³
	主伐材積	8.7万m ³	9万m ³
	県産材需要量A材	5.6万m ³	6万m ³
	県産材需要量B材	3.5万m ³	8万m ³
	県産材需要量C材	13.4万m ³	11万m ³
	新たな森林活用に取り組む団体	6団体	17団体
個別目標	木材生産額	16.5億円	21億円
	特用林産生産額	8億円	9億円
	間伐生産性	5.7m ³ /人日	7m ³ /人日
	コミュニティ林業	185集落（累計）	300集落（累計）
	高性能林業機械の新たな導入台数	6台	15台（5年間累計）
	新規林業従事者	27人	100人（5年間計）
	県産材製品の県外・海外への販売額	1.3億円	2.0億円
	みんなでつかおう「ふくいの木」運動参加者	2,468人	33,000人
	針広混交林化	1,196ha（累計）	2,300ha（累計）
	緑と花の県民運動参加者	24,000人	95,000人

4 令和2年度の取組み

① 森を活かすプロジェクト

- ・「ふくい林業カレッジ」では、早期就業希望者向けの短期コース(3カ月)を新設。7月末に5名が研修を修了し、長期コース(1年)では4名を育成
- ・施業地の集約化を図るコミュニティ林業は、集落での合意形成に向けた座談会やリーダー研修会により、30集落で木材生産組合を設立
- ・伐採と植栽を同時期に行う一貫施業や作業効率の良いコンテナ苗の植栽など造林の低コスト化につながる先進的な取組みを県内6カ所で支援(12ha)



林業カレッジ研修
(福井市小羽町)



主伐・再造林
(大野市木本)



コンテナ苗植栽
(あわら市清滝)

② 木を活かすプロジェクト

- 県産材を使用する住宅の新築およびリフォーム、民間施設の木造・木質化、木製品の導入に対し支援
- 観光地向けのデッキチェアなど県産材商品(3商品)の開発を支援(8月～3月)
- 中大規模木造建築物の設計者を育成する「ホルツアーキテクト育成講座」を開催(10月～12月)
- 東京で開催された大規模建材展「ジャパンホームショー」への出展(11月)や台湾での住宅関連資材の常設展示(1月～3月)、台湾企業とのオンライン商談会を開催(1月)
- 仁愛女子短期大学の幼児教育を学ぶ学生と連携し、こども園や保育園での「ふくいの木づかい体験会」を開催(11月～3月)



中大規模民間施設での利用
(越前市)



県産材商品の開発
(デッキチェア)



ふくいの木づかい体験会

③ 森に親しみ、森を守るプロジェクト

- ・森林空間の新たな利活用を促進するため、森林体験の取り組みを検討している団体を対象として全国における先進事例の研修会を開催【18団体25名参加】(11月・1月)
- ・香福茸の販路拡大のため、飲食店関係者を対象とした栽培地見学と試食会の開催(12月)
- ・航空レーザ測量のデータを活用し、山地災害の危険性の高い箇所を抽出・把握 (2,100ha)
- ・既設治山施設の補修や機能強化を実施 (8箇所)
- ・列状間伐により広葉樹の導入を促す針広混交林化など多様性のある森林へ誘導
- ・「みどりと花の県民運動大会」を開催し、幅広い世代を対象に、花の寄せ植え体験等を実施(10月)



森林体験先進地事例研修会



治山施設の補修 (高浜町関屋)



みどりと花の県民運動大会